

教員採用試験合格を目指して

教職支援センター長

岸 本 芳 信

I 教員養成や教員免許状の在り方の議論も活発化してきた中、改訂学習指導要領が小学校に続いて中学校でもスタートしました。さらに、教科書の電子化も進んでいます。一方、平成 18 年改正の「教育基本法」の前文には、「我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家をさらに発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。……」とあります。

このような教育界の変化の中で、教育の充実発展を目指し全国各地で多くの教師が活躍されています。皆さんもその仲間入りを目指し、必要な資質・能力の向上に努め、強い意志と目的を心に精進し、教員採用試験に向けて力強く歩みを続けましょう。部活動やボランティア、スクールサポーターや学校支援活動等を通しての、協働や教育の実体験、教科指導に必須の専門知識や教職に欠くことのできない教養等の自己練磨などが、試験合格の大きな力になります。また、各府県市で実施している、いわゆる「教師塾」や「学校支援ボランティア」も、注目すべきことでしょう。

II 昨今の教員採用の状況は、小学校での大量採用、中学校・高等学校の倍率低下の傾向が続いております。また、新卒教員の増加する中で、実践力重視とともに、感性豊で活力に満ちた先生に熱いエールが送られています。採用の方法では、関東地区を中心に大学推薦制度もあります。

本学の平成 25 年度教員採用候補者選考試験合格者は多くの府県市で合格者があり、新卒の合格者は昨年より増加の傾向となりました。甘い気持ちを捨てて「ぜひ教師になる」という強い信念を持って、今一度自らの採用試験対応学習を充実し、あと一步の向上で希望実現に邁進してください。

III 採用試験内容は、まず、教科の専門知識、教師として必要な常識・教養等の筆記試験です。試験科目は、都道府県市によって多少異なりますが、①一般教養：中高レベルの人文・社会・自然分野、時事問題等、②教職教養：大学で履修する教育原理（人権教育・特別支援教育を含む）、教育心理、教育史、教育法規等、③教科専門：小学校全科、中学校・高等学校の専門教科で高校修了までのレベル、④論作文：1000 字程度の小論文等です。⑤小学校英語も要注意です。

次に面接試験、実技試験です。人物重視といわれ面接試験の比重も増えてきています。面接試験は、個人面接、集団面接、集団討論などがあり、模擬授業・場面指導・ロールプレイングを含むところもあります。自らの人間性、協調性、積極性、表現力、社会性等を普段から身につけるように生活することが大切でしょう。また、日頃から教育に対する情熱・理念を高揚し、しっかりした教育理念を持ち、自らの人格、知識・教養をアップし、力強く端的に意見を述べるができるよう努めましょう。

IV ここで、幼稚園・保育所に目を向けてみよう。

まず幼稚園では、平成 24 年度実施の採用試験で、公立の合格者が増加してきました。公立の採用試

験はほとんどが市町単位で行われています。近隣で同じ日程というところが多いようですが、多くの市町を受験することができます。したがって競争倍率も高くなっています。政令指定都市では小・中の教員と同時に募集しており、小学校等の教員採用試験と同様に考えてください。政令指定都市以外は一般職員と同時に募集している市町が多く、公務員試験も意識しておくといいでしょう。したがって、募集の詳細は、各市町のホームページや広報を注視しておく必要があります。公立を目指している人は、早目から準備を進めましょう。

私立の採用試験は7月頃から求人が届きます。教職支援センターの求人掲示板を注目しておいてください。各園によって経営者の想いや条件が異なるので良く調べるとともに、園見学等を行い自分の眼で確認することも大切になります。したがって、余裕を持って受験候補園を選ぶことが必要でしょう。先輩の話の聞いたり、大学の先生方の指導を受けたりすることも大切な要件でしょう。また、最近では、幼保一元化や子ども園の話が進んでおり、幼稚園免許だけでなく保育士資格も問われるところがほとんどです。是非保育士資格も取得しておきましょう。

つぎに、保育園の受験ですが、公立では市町の職員と同時に実施されています。幼稚園受験と同様に、市町のホームページや広報で採用情報を確認してください。昨年に続いて多くの方が公立にも挑戦しており、合格者も増加しております。まず公立から受験してほしいものです。その際の学習については、公務員試験と実技を考慮しておくといいでしょう。私立の保育園（保育所）については、かなり多くの需要があるようです。待機児の解消が叫ばれており、今後も募集も多いと想像されます。私立の幼稚園と同様に各園によって経営者の想いや条件が異なるので、受験園の選択には十分留意してください。さらに、私立の幼稚園・保育園に共通することは、人の回転が速いことです。希望する園の職員の勤務状況（年数や条件等）も良く調べて、自分の将来設計とも合わせてみることも大切です。

V さあ、いずれの学校種・園を受験するにしても、広い門になったとはいえ合格するには、まだまだそんなに生易しいものではありません。いま一度心を引き締めて、具体的かつ自主的な実行計画を立てましょう。そして、地道に実行しましょう。「何を、いつまでに」という具体的な目標を持って、採用試験を中心に据えた自らの生活態度を確立しましょう。希望実現に向けて、強い信念を持って全身全霊を傾けましょう。